

## 急性脳症の予後を決定する因子に関する後方視的研究

### 1. 研究の対象

急性脳症を発症し、当院にて過去（2011年～2016年）にリハビリ入院した患者様（拓桃医療療育センター時代の入院も含まれます）が対象となります。

### 2. 研究目的・方法

小児の急性脳症は、様々なウイルス感染症に伴って発症することが多いですが、なぜ一部の患者様にのみ発症するのかなど、いまだその機序は不明な疾患です。急性脳症を発症すると、脳の急激な浮腫や神経細胞死を来し、重大な後遺症を残すことが多く、今なお小児科診療での大きな問題となっています。当院では、拓桃医療療育センター時代を含めて、小児の急性脳症発症後の後遺症に対するリハビリテーションを実施してきています。この中で、発症後の回復が順調である方と思わしくない方がいることを経験しております。そこで、この違いがどんな因子と相関するかを検討するために、上記の臨床研究を開始しました。これは、患者様の過去のカルテを参照して、様々な要因を予後良好例と予後不良例に分けて解析して、予後に関与する因子を検討します。この検討により、急性期の治療としてどんな選択が好ましいか、後遺症に対するリハビリにどのような形式が有用であるかを明らかにします。患者様の氏名などの個人情報には省いた形での臨床研究を予定していますので、個人情報が外部に漏れることはありませんのでご安心ください。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

当院にて過去（2011年～2016年）にリハビリ入院した急性脳症の既往を持つ患者様（拓桃医療療育センターも含まれます）のカルテを参照して、急性脳症発症前の発達状況・てんかんなどの合併症の有無、家族歴の有無、急性期の治療法の内容、発症直前の発達状況、発症後の発達状況、リハビリ介入の形態、MRIの変化、介護レベルの推移などを比較し、予後良好例と予後不良例に分けて単変量解析を実施し、さらに有意の項目については多変量解析を実施して、どんな因子が予後に関与するのかを検討します。

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、  
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出  
ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

萩野谷和裕

宮城県立こども病院 副院長・神経科主任科長

T E L : 022-391-5111

研究責任者：萩野谷和裕

宮城県立こども病院 副院長・神経科主任科長

T E L : 022-391-5111